

一、御子息左エ門殿三エ門殿（右脱か）も御意見を以、夫錢諸役儀御同前に御座候て、迷惑仕候。はる中も免同諸役之事も十日におよびつめ申候へて、いろいろ御わいごと申上候へ共、少も御ゆるし無御座候。あまりに迷惑候仕。いつかたえもまかりうせ申度候へども、御法度に御座候て、かように申上候。
御披露。

二五、金屋村および西後庵村・西後庵新田村

1、金屋山願行寺 濁川に旧鶴沼川が合流した複合扇状地の裾合いの氾濫地で、下部には大きな礫がるいるいとして、表土の浅い、河原・湿地・荒無地・雑木林の入りまじった地域であるが、その中州を拾って、開拓が相
当古くから行なわれていたらしい。

曹洞宗の金屋山願行寺が村北端れにあるが、慶長の頃（一五九六〜一六一四）円寿という僧が住んでいたと伝えている。本尊は御丈四〇センチの釈迦如来で、その側にある開山僧の像とみえるが、その円寿の御姿かも知れ



金屋の釈迦如来

ない。来由はよくわからない。

河原地で地下水が低く、村には昔、寺前に井戸が一つあっただけといって、今にその古井戸が残してある。当時の開拓・開村の困難さが思いやられる。

2、西後庵の比丘尼屋敷 村の名が、永正の頃（一五〇四〜一五二〇）後庵と呼ぶ比丘尼が住ん